



新選組の日

1863年3月、「壬生浪士組」の近藤勇・芹沢鴨・土方歳三・沖田総司らが京都守護職の松平容保の配下に入り、「新選組」が正式に発足しました。その日にちなんで3月13日が「新選組の日」とされています。

幕末の京都で治安維持にあたる警察部隊として誕生した新選組と関係が深いところが今も残っています。

金戒光明寺

「新選組」誕生の地

幕末の会津藩主・松平容保が京都守護職として本陣を構えた寺。この寺で近藤勇と出会い、新選組が誕生したといわれています。



謁見の間



壬生寺

最初の駐屯所

壬生寺境内は新選組の兵法調練場に使用され、武芸や大砲の訓練が行なわれていました。



壬生塚
新選組隊士の墓所



「誠」の一文字の隊旗は
京都高島屋製

おなじみの青い羽織は
京都大丸製



島原花街 角屋

新選組も通った料亭

島原で営業していた揚屋(饗宴施設)。初代局長芹沢鴨との関わりが深く、入り口付近には芹澤による刀傷が今も残っています。



島原大門



西本願寺 太鼓楼

第二の屯所

壬生の屯所が手狭となった新選組は西本願寺に移り、境内に「新選組本陣」の看板を掲げて太鼓楼を拠点としました。



太鼓楼は、時を告げる太鼓がおかれた建物



■ 経営者大学 夏季講座お申込み受付中！

経営者大学とは 会社改革に本気で取り組む 1年間12講座 計25日間のプログラム

■ 経営者大学の特長

01 1987年開講以来、 1400名以上の企業リーダーを輩出！

「経営者として自己流でやってきたが、このままでよいのか…」「経営全体を体系的に学びたい」「後継者として経営に自信がない」など、様々な悩みを抱えた経営者の方々にご参加いただいております。
講座を通じて、それぞれの悩みや課題と向き合いながら、経営知識の習得やリーダーとしての意識変革に取り組み、経営革新を進めておられます。

02 中小企業の経営現場から生まれた 体系的・実践的プログラム

経営者大学は、中堅・中小企業の経営現場で経営者の苦悩や喜びを分かち合いながら、続けてきたご支援の中で培ったノウハウを活かしながら、プログラムを構成しています。
経営全般の基礎知識を体系的に学んでいただくと同時に、理論だけでなく、実際の自社の問題点をしっかり見つめ直しながら、具体的な成果を上げていただくための講座となっています。

03 会社改革に本気で取り組むメンバーと 他流試合ができる場

経営者大学には、幅広い業種・年齢の経営者や経営幹部が参加されています。それぞれの参加のきっかけや目的は違いますが、会社経営に本気で取り組んでいる方々の熱い想いがぶつかり合う、まさに真剣勝負の場となっています。
メンバー同士の交流で得られたものは、一生の宝となり、数十年来の受講者の交流会では今でもよき友、よきライバルとして、共に切磋琢磨を続けておられます。

04 仕事現場を離れ、京都の地でじっくりと 自社の経営と向き合う

経営者大学は、すべての講座を会場参加型で行います。月に一回、現場を離れた場所に身を置き、自社の経営を見つめ直す時間は、参加者からとても有意義な時間になっている、との感想をいただいております。
一年間、京都で過ごされた時間が受講者の皆様にとってかけがえのない時間になることを願って、敢えて会場参加型にこだわり、本講座を続けています。



主宰講師 飯塚 健二 ブログご案内

- ・「人を育てる極意」①～⑤
- ・「右腕・後継者を育てるための“経営的視点”入門」①②



経営者大学第124期(夏季講座) 7月スタート

参加をご検討される場合は弊社までお問い合わせください。
担当者がご訪問またはオンラインで面談の上で、講座内容の詳細のご案内をいたします。
プログラム内容や、一年間の日程などはホームページからご覧になれます。
こちらからご確認ください。

経営者大学ホームページ <https://k-dai.jp/>



<あとがき>

4月8日は「花まつり」。お釈迦様の誕生日を祝う行事です。灌仏会(かんぶつえ)ともいい、今でも多くのお寺で法要が行われます。子供たちがお釈迦様の像に甘茶をかけたり、お稚児さんになったりする光景は春の穏やかな一場面ですね。(木下)